

番号	委員名	発言内容	対応方法
1	落合委員	進めていく方向をはっきりしておかないと、計画を作るだけになってしまう。特に、高齢化の中で、担い手の発掘、育成など若い人が魅力を持って携われるまちづくりが重要である。	まちの将来像やビジョンなどで検討します。
2	小柳委員	圧倒的な高齢化となっているため、今後、持続可能な町内会にしておくためにはどうすればいいか。元気な高齢者を増やし、まちづくりに携われる仕組みや若者が参入したくなるまちづくりなどが必要。	まちの将来像やビジョンなどで検討します。
3	中川委員	緑がどんどん減少してきているなかで、まちの魅力というものはどうなっていくのか。桃花台 NT だけでなく、既存集落の状況も踏まえ、一体性を持ったまちづくりが必要。	まちの将来像やビジョンなどで検討します。
4	深堀委員	一人暮らしの高齢者が、かなり増えてきているため、どのような形で犯罪から高齢者を守るか。これには、若者が参入したくなるまちづくりなどを考える必要がある。	取組の方向で検討します。
5	加藤委員	委員同士がもっと議論しやすい会議の進め方、発言しやすいフランクな会議運営が必要。	出来る限り議論しやすいよう努めます。
6	加藤委員	審議会の委員以外の方々とも一緒に考えていかないと、担い手や実効性のところが確保できない。	ワークショップで対応できるように検討します。
7	和田委員	地元にお住まいの方や、東部地域で根ざしているという方が中心となって考えていき、「自分たちの子や孫が帰ってきたいまち」というものを想像しながらやっていくことが必要。	まちの将来像やビジョンなどで検討します
8	古池委員	この土地に埋め込まれた資源の整理、文化資源の掘り起こしの整理が必要。	ワークショップで対応できるように検討し構想策定につなげます。
9	秦野委員	住む・暮らす、働く、既存ストック、資源、これらの関連性が見える形でまとめられるとよい。	構想策定で対応します。
10	大塚委員	構想ができ、それに基づき、すぐに次の行動につながっていくものにしたい。実際のまちづくりの担い手の人たちの後押しをするような構想が作ればよい。	構想のうち、実施体制等での記載を検討します。
11	増田委員	皆の行動指針になっていくという形に構想をまとめ上げることができたらと思っている。	構想策定で対応します。

番号	委員名	発言内容	対応方法
12	増田委員	構想の中には目標とする、進捗管理できる指標みたいなものをどう見つけていくかということも重要である。	KGI 及び KPI を設定予定です。 ※資料5のとおり
13	三木委員	桃花台線旧車両基地跡地や今後撤去される駅の跡地の活用を視野に入れた計画にしたい。	取組の方向などで 対応できるか検討します。
14	和田委員	KGI のような総括的な指標が必要で、KGI、KPI の設定を行い、PDCA サイクルを回していくことが大事である。	KGI 及び KPI を設定予定です。 ※資料5のとおり
15	古池委員	桃花台と既存集落は親和性がありそうだが、企業とのコミュニケーションをどのようにとっていくか。	ワークショップ等での対応を 検討します。 (商工会議所と連携し進めます)
16	増田委員	まちづくりイベントみたいなことを企画するなど、実行動に繋がっていくワークショップがあっても良い。	ワークショップでの対応を 検討します。 ※トライアルまで実施 資料4のとおり
17	秦野委員	まちづくりミーティングとワークショップをどのように進めていくかということを緻密にやらないと上手くまとまらない。	資料4のとおりです。 (スケジュール)
18	田中委員	「モデル的にやってみる」、「チャレンジしてみる」などをトピック的に捉えていくようなことを計画に盛り込むことは非常に魅力的である。	ワークショップのアイデアを 構想に反映できるよう策定を進めます。
19	渡辺委員	高齢者の方がとても多いため、免許返納後は、近くにバス停がないと、まちに出ることが不便と感じる方が多いと思う。	取組の方向で検討します。
20	藤村委員	子どもたちが、自分たちのまちをこうしていかうと考えることによって、自分たちが将来住みたいと思えるようなまちを作れるのではないか。	ワークショップでの対応を 検討します。
21	和田委員	子どもの意見により、企業が動いていくというのはあり得る話だと思うので、学校、授業の一環で皆様と一緒に考える機会を持つことができれば良い。	教育委員会と協議します。
22	村上委員	もう少し行政側から具体的なことが示されないと、半年でパブリックコメントを出すのは無理ではないか。	資料4のとおりです。 (スケジュール)